2025 年 5 月 29 日

学校法人三幸学園
大阪こども専門学校
校長　平松　敏機　殿

学校関係者評価委員会
委員長　西寺　志裕子

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員
①　岡出　多申　（社会福祉法人 大阪福祉事業財団 高鷲学園　施設長）
②　堀田　智優　（第１５期卒業生）
③　西寺　志裕子（飛鳥未来高等学校　キャンパス長）

２　学校関係者評価委員会の開催状況
2025 年５月２３日（会場　大阪こども専門学校　４０１教室）

３　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度　学校法人　三幸学園　大阪こども専門学校
自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者　：　副校長　片渕　卓也
学校関係者評価報告責任者　：　学校関係者評価委員会委員長　西寺　志裕子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。
また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①　前年度重点施策振り返り

（1）学生支援について

・合理的配慮を希望する学生に対し、より丁寧に実習前の面談を行い実習先選定や実習先での指導を本人に合ったやり方で行うことで、業界への目標喪失を防ぎ資格（免許）修得率の向上及び退学率の低減に向けた仕組みを構築できた。

・就職支援として外部の就労支援サービスと連携し、多様化する学生に対してより支援が行えるような仕組みを構築できた。

（2）教育活動、社会貢献・地域貢献について

地域の園と連携し園児をオープンキャンパスに招いたり、学生が園に赴き授業で得た技術を提供したりするなど例年以上に現場と連携し学びの質向上、地域・社会貢献することができた。

②　学校関係者評価委員会コメント

（岡出委員）配慮が必要な学生が多いと聞いていたため、保育実習を行う際 10 日間を連続ではなく、日程を分けて実施するなどしていけばクリアになるように思う。就労移行支援サービスとの連携、地域貢献は積極的に行えており、大阪こどもの魅力だと思う。
（堀田委員）学園のミッション・ビジョンを軸に日本・世界に広がるような取り組みをしていると感じた。配慮が必要な学生へ丁寧な対応をしていると感じたが、特性がない生徒たちが特性のある生徒に対する理解が深まるような、相互に理解し合えるような環境づくりが必要だと感じた。
（西寺委員）高校から生徒を送り出す際、同じ学園なので安心して送り出せているが、他の法人については心配になる。配慮が必要な学生が増えている中で、受け手側のシステムが教育機関には必要だと思う。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・学校が掲げる理念・育成人材像について生徒達への周知は年間を通して機会がある一方で、保護者等への周知は入学時点に限られている。

・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想について、全教職員に周知はできたが、理解浸透には引き続き課題が残る。

② 今後の改善方策

・2025 年度は保護者連携ツールも導入予定。保護者全体に対する周知機会を増やすことで、更なる浸透機会を増やしていく。

・全体会議等の場で学校側が伝えたいことを共有しながら、アウトプットの機会として同日に開催する学年会・教科会を活用し認識統一を行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（西寺委員）生徒面談を行っていると思うが、ツールに弱い保護者もいるためプラスして対面で保護者面談や保護者会を行うのもいいと思う。保護者会の場合は高校では進路および教務に分けて行っている。専門学校にとっていいかはわからないが、入学前には実施していても入学後保護者と関わることがないため、単位の取り方などわからないこともあるだろうし、実習先を一緒に選ぶなどしていくのはどうかと思う。

（堀田委員）私が学生の時は、学校の理念は浸透しているとはいえなかったため、年間を通して伝える機会があると学生たちも意識ができるようになると思う。専門学校の保護者がどれだけ関わろうという気持ちがあるのか調べるのは難しいと思うが、保護者会を定期的に行い、保護者自身の悩み相談なども行うことで強い連携ができれば幸せな気持ちになれるのではないかと思う。

（岡出委員）理念の浸透についてはとても難しい。学生が学校のことをどう思っているのか発表させるようにすると面白いかもしれない。保護者の方にはツールを使用するなどして学校の取り組みを知ってもらい、連携をとった方がいいと思うが難しいと思う。

（許斐さん）一番いい形として今後、学生自身が大阪こども専門学校を卒業したからこんな力が身についたという言葉が我々の思うところと一致するということを目指している。多くの授業の中でも今この力を身に着けてほしいというのを学生自身にも感じてもらえるよう意識的に言葉にしていき、目指すべき未来を今後描いていけたらいいと思う。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

･情報システム化を促進しようとする意識は上がっており、また活用率も上昇している。しかし、システムの理解度に偏りがあり、また全体の活用度も更に高い水準まで上げていく必要がある。

② 今後の改善方策

･学園から発信されているマニュアルの活用、および部門の状況に合わせてブラッシュアップし誰でも活用できるよう理解を深めていく。全体、場合によっては個別のレクチャー会も検討。

･姉妹校の活用例などを積極的に取り入れ、活用度を高めていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（堀田委員）現場ファーストの傍らで計画書作成に AI を使用しているが携わっている人しかわからない。私自身、施設長になるまでは触れていなかったため、現在苦労している。職場ではアメーバ経営として全員が経営に触れるという形をとっているが、各リーダーを決めて触れていくようにすることで意識があがり作業にも慣れていくと思う。

（西寺委員）高校の授業は ICT 化が進んでおり、ICT 端末とテキストのみで授業を進めている。また、テストレポートセンターができたため、そこで採点をするため業務の効率化や残業を減らすようになっている。

（岡出委員）会議を部署で行うと思うが議事録作成は得意･不得意があり時間もかかる。音声機能を使用することで業務の効率化に繋がると思う。

（清瀬さん）音声機能を活用した議事録や ICT 機器など導入したいと思うことがあったため、仕組みを作っていきたい。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・学校としての資質向上のための研修については全体会議等での機会を設けている部分もあるが、教職員によって実施回数に差があったり、自クラスや自授業の生徒へのアプローチを検討・ロールプレイングするところまでは至っていなかったりする。

② 今後の改善方策

・より先端的な知識・技能等をしゅうとくするための研修について、2025年度も会議の場を活用したり、現場とともに連携した研修会を実施したりして、修得の機会創出に努める。

・研修の後どのように実践していくかまで職員間・学年間で検討・実践できるよう、研修後のアウトプット機会を仕組化し設ける。具体的には（1）の改善方策と同様に学年や関連教科毎の機会を仕組化していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（岡出委員）1年目については、職員会議で30分の時間を設けて学びを発表することでアウトプットを行っている。自分が講師として新任職員に研修をすることを考えてもらい、職員の中で発表を行っている。学びはそれぞれ感じ方が異なるため答えは1つにならない。また子どもたちと生活を行っていると柔軟性がないと困るため、過程は異なっていても目的は同じになるよう学びの機会を設けるようにしている。

ちなみに、大阪こどもの卒業生に入社いただいているが、どの学生もこの理念のもと教育されたのだということがよく分かる人財が多いと感じている。

（堀田委員）ZOOM を使用し自分の必要な研修を受講するという仕組みにしている。月に1度、療育士の会というお悩み相談会があり、現場のリアルな悩みをスプレッドシートに入力し、その悩みに沿った内容を行っている。

また月に1度上長との面談を実施しており、行動目標と成果目標を記入することで振り返り、業務と人材育成に分けて数値化していくなどしている。

（西寺委員）毎週決まった会議開始前30分間、年間を通して計画を立てて研修を行っている。内容は新人に向けてのものや広報・教務関連、ロールプレイなどの仕組みを入れたカリキュラムを組んでいるため、必要とする人が受けることができる。研修の話者については、広報室の方、OJT 担当や教務担当など毎回決めて行っている。

（清瀬さん）研修でどう持っていきたいか、何を学ばせたいかを計画的にイメージして提供し、アウトプットしているように感じたため、そこを意識して取り組んでいきたい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・資格取得率の向上を図る取組みは行っているが、成果が出し切れていない。

・退学率は 2023 年度に比べ低減することができているが、引き続き 1 学年を中心に退学率の低減が求められる。

・卒業生の実態把握には努めているが、学校の教育活動の改善のため更なる活用ができる余地がある。

② 今後の改善方策

・履修科目の単位修得により資格取得の可不可が決定するため、単位修得率の向上に努めること。また、修業年限内に資格未修得であった学生に対する支援も行っていく。

・2024年度は副担任制を強化し、副担任による面談を実施したり担任を入れ替えてHRを行ったりと、より多くの教員でサポートする体制や、学生が相談できる教員を自由に選択できる仕組みづくりを強化した。

・今年度も引き続き実習や現場実践の機会を普段の教育活動に繋げ、目標喪失を理由とした退学者の低減に努める。

・卒業生から得た情報を、在校生が受講する科目の中でリリースするフローや実際に卒業生に帰校してもらい、教員や在校生と情報提供してもらう機会を創出する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(堀田委員)手厚いサポートをしてくれていると思うが、就職先について幼稚園・保育園・施設以外で保育士資格が活かせるところを紹介することで、学生の選択肢をもっと広げられたらと思う。

(片渕さん)就職先として、子ども関連の企業と連携して説明会を実施し、翔ら規定選択肢を広げている。また実習先がすべてという印象であるが園によって様々なので、業界全体として知ってもらった方がいいように思う。

(西寺委員)ICT化が進んでいるため、電話に苦手意識がある。1年は必ず三者面談・クラス会や保護者会を実施し、学校の理念や教育を知ってもらい保護者の方と連携をとることで、学生の状況などわかるようにし、無関心ではいられない環境を作るといいと思う。

(岡出委員)保育の地域格差があるように思う。資格を持ってどこの地域に就職するかで同じ保育士であってもお給料が異なる。1つの場面だけで判断してしまうのが難しいと思うため、確保だけではなく育成が課題である。学校においても、学生の確保だけではなく卒業が目標となるように思う。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路･就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか	**4**

① 課題

･卒業生 LINE 等を活用し、定期的に支援体制の存在を発信したり学校行事に卒業生を招待する等支援強化に取り組んでいる一方で認知度や支援実績にはまだ課題が残る。

･2024 年度より高専接続強化のため入学前に姉妹高校卒業生と次年度入学生が交流する機会を設ける等仕組化に力を入れており今後も継続した取り組みが必要。

② 今後の改善方策

･卒業生 LINE の定期的かつ卒業生にとって有効的な情報発信は引き続き意識しつつ、上記で触れた卒業生が母校に戻る機会の創出も模索していく。そのために卒業生交流会においても参加率を向上すべく施策を行う。

･入学前後の情報共有について、より高校と連携し十分な情報の中で生徒支援を行ったり、在校生と高校生とが学校行事やその他イベントでも協働するような取り組みを行っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（堀田委員）卒業後の支援は手厚いと思う。就職するにあたり、卒業生が働いている職場への見学を積極的に取り入れ、先輩が働いているところを実際に見に行くようにすればいいと思う。実習だけで就職先を決めるのではなく、視点を変えることでワクワクする未来を作れるのではないかと思う。

（許斐さん）教員が卒業生訪問をしているが、学生にさせてもいいかもしれない。

（岡出委員）卒業してからの支援はしっかり確立化してもらえると法人と学校の連携が取れていくのではないかと思う。学生の今の状況や経済的背景は厳しいように思うため、学生支援という状況がある法人の情報共有の場があればいいように思う。また、福祉は本当にしんどいため高校生対象に発信をしていこうとしており、高校生から知ってもらうというのは急務だと思っている。

（西寺委員）高校生は中学での職業体験で進路を決めていることが多いため、中学校へのアプローチが大事だと思う。また、うちの法人は専門学校があるため、連携を取り園見学へ行かせてもらったり、先生方に授業をしてもらったりするなど連携をとっているため、評価は3ではなく4ではないかと思う。
（許斐さん）卒業生訪問を教員だけではなく、生徒が行うというところや学園内部の高校と連携する一端に、専門学校がつながる業界とつなげる（高校時代からの業界斡旋）は新しい気づきとなった。

（6）教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題
・海外研修が実施出来ていない。（コロナ禍も含む）
・教育上必要な設備は整備されているが、更なる現状ニーズ（ひとり空間等）に応える整備に課題を感じている。

② 今後の改善方策
・2025 年度より海外研修を国内研修に変更している。参加ハードルを下げつつ、より魅力を伝え希望者の最大化を図る。
・限られたスペースではあるが活用が出来るよう、求めている生徒に対して適切に周知を行う

③ 特記事項
なし

④ 学校関係者評価委員会コメント
（西寺委員）クールダウンルームを設けることはいいことだと思う。高校は通い方自体がクールダウンで大学生のような学び方である。高校でも今年度は飲食できる自習室と勉強する自習室を設けて行っている。専門学校や大学への通学に向けて強度をあげていく仕組みとしてはないが、専門学校と大学の違いや分野別説明会を毎月行っている。こども校への入学が決まった学生に1カ月で何日登校できたかというチャレンジ期間を設けることはできる。
（堀田委員）学生の頃、室内で授業を行っていたため、実際に就職後、外で子どもたちと遊ぶとなった際、外で授業をしていなかった分何をすればよいかと困ったことがある。
（岡出委員）クールダウンルームは施設にもほしいと思う。リタリコとの連携など適切で丁寧な対応が取れているのは魅力だと思う。インターンシップについては、ワンデイしか実施していないため、受ける側もハードルが高いように思う。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・合理的配慮が必要な入学希望者の増加。

② 今後の改善方策

・具体的な学習形態や国家資格取得に向けて求められる能力等を伝えながら、入学希望者に必要な支援を共に検討していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（岡出委員）入学前スクールカウンセラーに話をいただくとあったが、保護者さんはどのような印象を持たれているのか。子どもの事への理解がしんどい保護者が多いため、アプローチは難しいように思う。

（清瀬さん）保護者によっても反応が異なるが、本人の困り感を減らすためだということを事例をあげてうまく伝え、年数をかけて理解してもらうご家庭があるため、家庭でも周りの学生の理解も難しさはかなりあるように思う。

（片渕さん）周りに伝えるためには、保護者や本人の許可が必要となる。専門的な方の協力があって生徒と関われているが、デリケートな部分はある。

（堀田委員）学生時代、数名配慮が必要な学生はいたが、卒業式は一緒に参加していなかったように思う。実習や授業の時間でリタイアしている学生が多かった。また、コロナで2年次の授業がほとんどなく、配慮が必要な学生にとっても過ごしやすい環境であったため、強制しなくてもいいのであれば、授業の出席方法など工夫があれば卒業できていたのではないかと思う。

（清瀬さん）様々な学生に合わせた配慮やサポート、また周りの理解も必要となる。資格の条件があるため、配慮が必要な学生をどのようにもっていくのかが課題である。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・公開講座の周知が弱い。

② 今後の改善方策

・地域だけでなく卒業生なども含め、広く発信していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（岡出委員）学生がプログラムを考えて一緒に遊んだりすることで、子どもたちが喜んでいる。料理サークルといって大学を使用して大学の先生に料理の作り方を教えてもらっており、学生さんにリーダーとして入ってもらい進めることで、実際に子どもたちも一緒に作ることで喜んでいる。

（堀田委員）実際に企業見学に行ったり、一日職業体験に行ったりすることができればと思うが、学生が開催しているところへ行くことで学生主体となるため、楽しめるように思う。また、発達障害の児童と学生とが接することもできるため実現できれば楽しそうだと思った。

（西寺委員）高校の校舎が広いため、子どもと触れ合えるというようなものをできればいいのではないかと思う。地下は子ども達も走れるし、ブルーシートが必要になるがキッズスペースも作れるため昔の遊びをしてもいいかもしれない。

（片渕さん）地域にスペースがなく困っている小規模園もある。そういった園様にご紹介ができるので、是非学園内連携として地域支援を斡旋していきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

（西寺委員）高校としては職業観を育てるのが大切だと思うが、学校選びの際にやりたいことがわからない学生も多いため、色々なチャンスを学校から投げかけてもらえると学生へ声をかけやすい。今後も連携をしていきたい。

（堀田委員）学生のために進化していると感じた。今後、繋がりを深めるために大人だけではなく、学生と児童との接点を増やすことでお互いの連携をより深められたらと思う。

（岡出委員）専門学生になると義務教育を外れるとはいえ、意思決定をしていくことは難しいと思うが、しっかりした支えがあれば安心でき次のステップを踏み出せる。また、入学前から支援があるのにはすごく魅力を感じ

るため、そこを大切にしてもらい、一人でも多い保育士さんを育ててもらいたい。
（許斐さん）時代の流れをもって進化していたつもりだがまだまだ課題や反省点など痛感した部分もあるため改善していき、今回いただいたものはチャンスにし、形にしていきたい。
（片渕さん）有益な情報をたくさんいただいた。ゼロから形にすることが得意なので、形にしたものをご報告し、日常でも連携ができればと思う。

以上